

第2外来

外来化学療法と放射線治療の看護

～がん治療を受ける患者さんの伴走者として

第2外来の看護師21人（育休者含む）は、当院に入院や通院をしている患者さんが検査や治療を安心・安楽に受けることができるよう専門知識や技術を学んでいます。関連する部署や専門職への橋渡しを行うなどコーディネーター的な役割も担っています。

勤医協中央病院の外来は
専門性の高い看護を提供するため
2つの部署に分かれています

外 来

第1外来

- 救急総合外来
- 中央処置室
- 各科専門外来
- 内科専門外来

第2外来

- 外来化学療法室
- 放射線治療室
- 内視鏡室
- TVレントゲン室
- CT室
- RI室
- MR室

目指しているのは チーム医療の架け橋的な役割も 果たす看護師

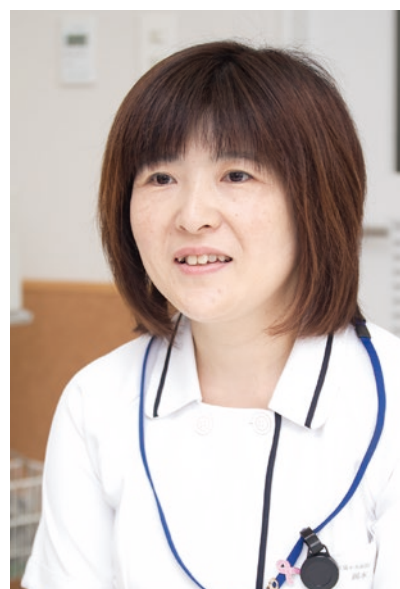
～患者さんの不安や疑問への対応
治療継続のケアに力を発揮～

第2外来 主任 岡本麻子

がん化学療法認定看護師

つらい治療を受けているがん患者さんに
十分なケアを提供したい

今から6年程前、40歳を目の前にした私は外来看護師として外来化学療法に携わっていましたが、「つらい治療を受けている患者さんに十分なケアを提供できていない」ことにジレンマと無力感を感じていました。漠然と「大丈夫ですよ」と答えるのではなく、治療計画や有害事象を正しく深く理解した上で、「具体的なアドバイスや責任あ



る看護を提供したい」「抗がん剤に対する正しい知識とアセスメント能力、曝露対策への知識を習得していなければ、安全で安心な看護ができない」という危機感がありました。

そうした中、がん化学療法認定看護師の存在を知り、大学で約半年間の研修を受けて2011年に認定を取得。がん化学療法ケアの専門知識を有する実践者としてスタッフの相談や調整に応じ、卒後研修世代の教育に携わり、病院や社会に貢献できるよう看護活動をしています。

臨床での課題や問題を日々解決しながら「がん患者さんご家族をしっかりと支える看護」を提供したいと思っています。



外来化学療法室

全員が共に学び 共にスキルを高めています

私が主任を務める第2外来は診療・治療部門の一つで、21人の看護師や事務クークが外来化学療法室、放射線治療室、内視鏡室、TVレントゲン室、CT室、RI室、MR室に分かれ、患者さんの検査や治療の介助・看護を担当しています。

責任ある看護が提供できるよう、それぞれの現場に必要な専門スキルを持つベテランの看護師が常勤で入りますが、日々進化する検査や治療を第2外来スタッフ全員が一堂に会して学ぶ学習会を毎月1～2回開催しています。担当以外の知識や技術を学びながら、誰もが「チーム医療」の一員であることを自覚し、他部署や様々な職種のスタッフと連携する際には「橋渡的存在」になれるよう、コミュニケーションスキルも磨きます。

外来化学療法室が目指すのは 「伴走者」のような看護

外来化学療法室には10床があり、月曜から金曜に化学療法を行っています。訪れる約200人の患者さんのうち、抗がん剤や生物製剤などの治療を受けている患者さんは約160人。一日10件から15件(年間1500件)の治療を実施しています。抗がん剤の投与はリスクが高く、吐き気や脱毛などの身体的苦痛を伴います。さらに、不安やいらだちなどの精神的な苦痛も感じながら、患者さんは治療を継続しなければなりません。

そうした中、私たち看護師の役割は、個々の患者さんの病状や治療計画を理解し、QOLを落とさずに治療の完遂を目指せるように支援することです。具体的には、患者さんの表情や体調をきめ細かく観察しながら有害事象を管理し、患者さんの言葉に耳を傾けて人生観を理解するよう努め、治療の意思決定を支援します。投与管理だけでなく、患者さんの日常に寄り添い、伴走者のようにサポートします。治療が長期にわたる患者さんや個別ケアが必要な患者さんの場合には「プラ

イマリー制」を導入し、担当看護師のプランや評価はカンファレンスで共有しています。抗がん剤曝露のリスク管理能力も必要です。

スタッフには「血管確保ができるなだけではなく、患者さんに寄り添うケアを提供しましょう」とアドバイスし、「患者さんにどう接し、どう説明すべきか迷ったら一人で悩まないでスタッフ同士で相談して解決しましょう」と声をかけています。

根拠ある看護を より充実させる連携・協働

進化するがん治療に対応した看護を患者さんへ提供するためには、第2外来の看護師が新たな抗がん剤治療の知識や技術を身につけ、看護の根拠を理解する必要があります。

毎週月曜にはドクターカンファレンスを行い、化学療法を始める新規の患者さんの治療方針や内容を確認します。治療前の患者さんに行う「抗がん剤の効果や副作用についての説明」や投与後の「有害事象の観察ポイントについてのスタッフ指導」を薬剤師に依頼したり、チームカンファレンスに参加してもらうなど、日常的な連携を続けています。病棟の看護スタッフとの合同カンファレンスで、患者さんの情報を収集してケアに生かすなど、意識的に他部署・多職種と協働し、がん化学療法の看護を充実させています。

全スタッフが共に学び立ち上げた 放射線治療室

2013年8月にスタートした放射線療法は、高精度放射線治療システム「リニアック」を使用するがん治療です。第2外来のスタッフ全員が放射線治療の基礎知識を学び、立ち上げを進めました。

放射線治療を受ける患者さんの治療方針は、北海道大学の放射線治療専門医と当院の主治医、放射線技師が同席する週2回の定期診察とカンファレンスで決定されますが、第2外来の担当看護師も参加しています。病態や治療計画を理解しながら、有害事象の発生を予測し、ケアに生かしています。

放射線治療は月曜から金曜の平日に実施され、毎日同じ場所に照射することから、患者さんには苦痛のない体位の保持と照射する部位の観察が必要になり、安全な介助が重要になります。

また、診察時や治療時には、患者さんの表情や言葉を理解し、個性を尊重した丁寧なケアで患者さんのモチベーションを支え、最長7～8週（66Gy）にも及ぶ治療の完遂を目指します。



リニアック



放射線治療カンファレンス

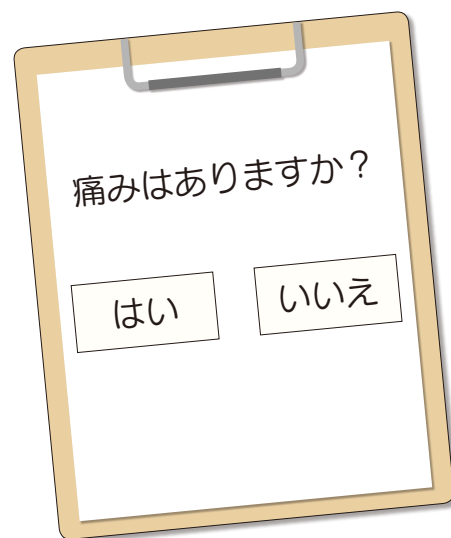
知識と根拠に裏付けられた 応用が利くケアを

嚙唾の患者さんの放射線治療を開始するにあたっては、化学療法を実施した診療科の病棟で使っていた、「コミュニケーション・ボード」を活用することになりました。ボードの「はい」「いいえ」の文字を指差しすることで患者さんの「訴え」をスムーズに確認できます。これは、外来と病棟の合同カンファレンスで看護スタッフから得た情報を生かしたケアです。他部署のスタッフや家族の情報がケアの方針を決めるにあたって欠かせないものであることから、多岐にわたる情報収集は、看護師の重要な役割になります。

看護師には知識と根拠に裏付けられた応用の利くケアが求められます。患者さんを取り巻く多職種の医療スタッフと連携するときも、問題意識を持ちながら主体的に関わることが大切です。

第2外来の看護スタッフは、ほかにもTVレントゲン室で胸腔や腹腔のドレナージやX線検査の介助や介護を行い、CT室やRI室では検査手順の説明や造影時の介助を担当しています。

スタッフは経験年数によって知識や技術に差がありますが、それが患者さんにとって不利益とならないようにスタッフ同士が協力し合い、学び合うことで進化する医療に伴う専門知識や技術を更新しています。



内視鏡室

医師に足りないところを フォローする看護があります

外来化学療法室 室長 鎌田英紀
乳腺センター外科医師

問題意識を持ち解決するように動くことが スキルアップに

2006年に外来化学療法室を設立した時に掲げたポリシーは「安全」「安心」「快適」ですが、それは今でも変わりません。

主に抗がん剤投与を行い、看護師が静脈穿刺・静脈ポート穿刺を施行しています。経験を積んだ看護師が常勤しながら、若手を指導・育成してきた取り組みが実り、第2外来全体の看護スキルが向上していると感じています。

化学療法に携わる看護師は、抗がん剤には毒性があるということを十分に理解し、オーダーに則って正確に仕事を遂行できるスキルが必要です。患者さんの有害事象の把握だけでなく、暴露を予防するための専門知識が欠かせません。マニュアルを作成し、必要に応じて改定していますが、患者さんや薬剤によっても異なることから、主体的な判断能力も求められます。

外来化学療法室では、看護師が患者さんに起きている現象を正しく観察し、アセスメントした上で医師に報告する流れができています。臨床の課題に問題意識を持ち、ほかのスタッフと協働しながら情報を集約・判断・解決するなど、チーム全員が情報を共有しながら学び続けることで臨床でのスキルや意識が向上するのだと思います。

看護師からの情報が治療方針の見極めに 役立っています

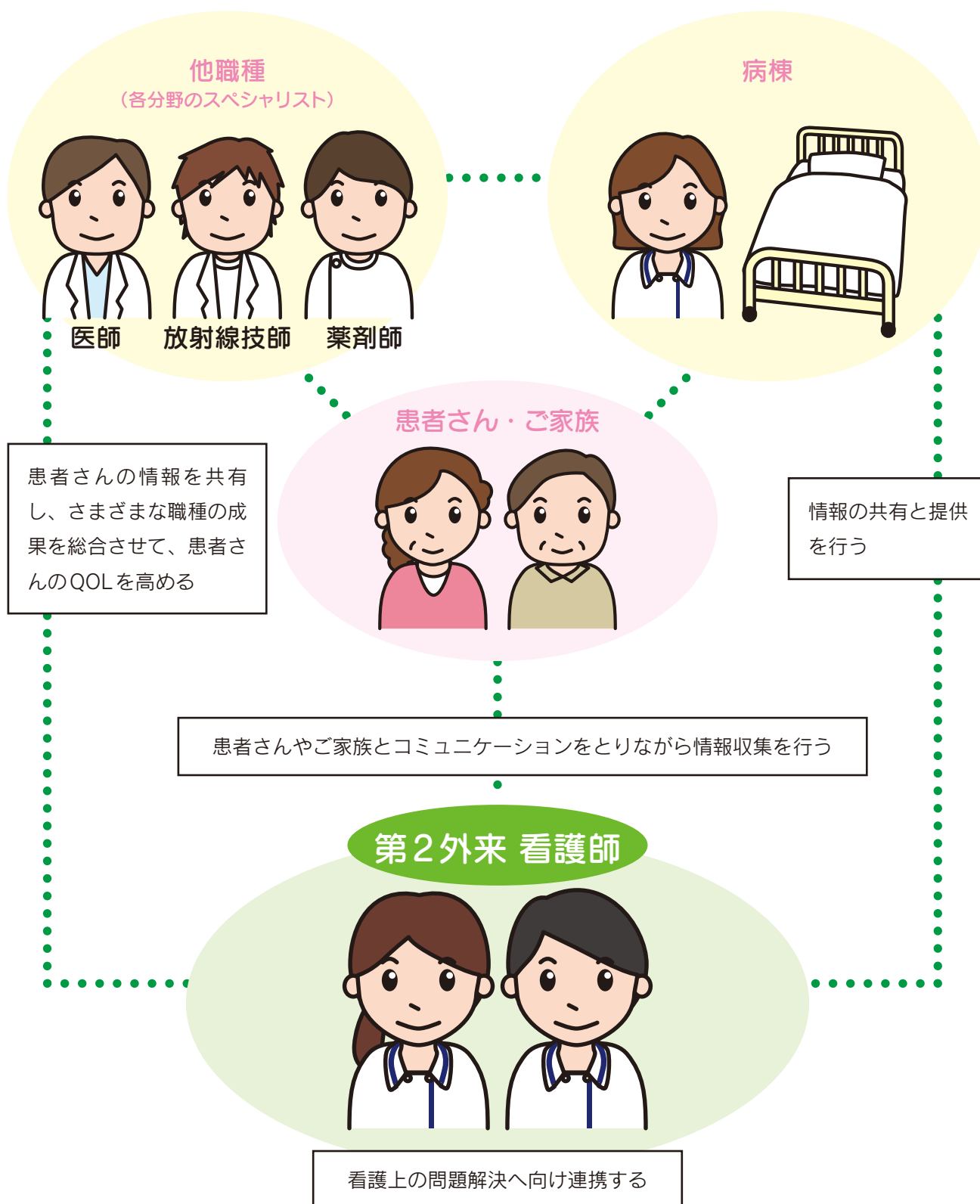
第2外来の看護師は、患者さんと会話しながら病態の変化だけでなく、生活背景や心情など多岐にわたる情報を引き出してくれます。こうした情報は、医師が治療方針を決めるにあたって大変に重要ですが、診察室ではなかなか収集できないものです。医師に足りない部分を看護師がフォローし、話し合いながら治療に取り組んでいくことが大切なのではないかと思います。看護師から主治医への情報伝達は、室長の私が橋渡し役を務めています。

また、今までのケア活動をまとめ、検証・改善し、学会報告することで、自分たちの看護を客観視でき、病院外にある新たな知識や技術に触れることができます。看護力を高める良い刺激をどんどん受けていただきたいと思っています。



第2外来看護師の役割

～外来化学療法や放射線療法を安全・スムーズに行うために～



チーム医療の中で自分の役割を果たし
「患者さんの伴走者になれる」看護師を目指します